

入浴施設用配管洗浄剤

入浴施設では定期的にはろ過機及び浴槽水が循環する配管内等に付着する生物膜(バイオフィルム)の除去・洗浄を行う必要があります。

酸素系

レゾルター・パイプライン

バイオフィルムを
強力洗浄

新登場

特長①

浴槽水に溶解すると
活性酸素を放出する
酸素系薬剤です。

特長②

簡単な作業で、
清浄と洗浄が一度に
行えます。

特長③

優れた酸化分解力と、2剤による洗浄方式の採用により、配管中のスケールやスライム、レジオネラ菌の繁殖源となる、バイオフィルム(生物膜)を強力に洗浄します。

特長④

塩素系薬剤と比べ、金属材料また各種ろ過材料に対して低腐食性です。
本剤は劇物・危険物に該当しません。



A剤：4kg(ポリ袋)×2袋
B剤：5kg(ポリ袋)×2袋
段ボールケースNET18kg詰め
※1ケースで対象水量2m³の洗浄が行えます。



専用中和剤
クロルイター(別売)
500gポリ袋×20袋
段ボールケースNET10kg



専用pH調整剤
ペーハーマイナス(別売)
3.5kg樹脂缶×4缶
段ボールケースNET14kg

製造元

 四国化成工業株式会社

幕張支社 〒261-8501 千葉県千葉市美浜区中瀬1-3-B16 ☎(043) 296-1665
大阪支社 〒564-0051 大阪府吹田市豊津町22-6 ☎(06) 6380-4112
福岡営業所 〒812-0007 福岡市博多区東比恵3-5-5 ☎(092) 431-4111
名古屋営業所 〒465-0093 名古屋市名東区一社2-124 ☎(052) 705-0116
徳島工場 〒771-0288 徳島県板野郡北島町江尻1 ☎(088) 698-4111(夜間・休日)

最新の情報はホームページでご覧になれます。

<http://www.shikoku.co.jp/>

使用量

系内水量1m³（浴槽+配管+ろ過機）に対し、A剤4kg、B剤5kg（それぞれ1袋ずつ全量）をご使用ください。汚れの具合により増量も可能です。

使用方法

洗浄作用では、数回の換水が必要となりますので、作業は定休日もしくは翌開業時間まで十分な時間が取れる時に行ってください。



① A 剤投入

薬剤Aを浴槽水に投入します。
（水量を循環可能な水位まで下げると、薬剤量も少なく、効果的な洗浄が可能です。また洗浄は温水でも冷水でも行えますが、温水の方が効果的な洗浄が行えます。）



② 反応中（スケール洗浄）

循環機を15～30分程度稼働し、配管内の洗浄を行います。



③ B 剤投入

薬剤Bを浴槽水に投入します。投入後激しい発泡が生じます。



④ 反応中（スライム洗浄）

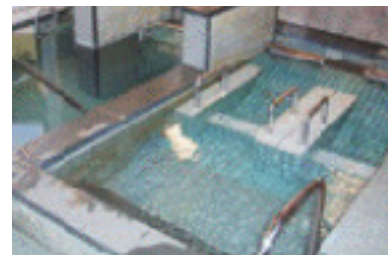
循環機を60～90分稼働し、配管内の洗浄を行います。ろ過機にろ材を入れたまま洗浄を行う場合は、ろ過圧が上限に達した時点で洗浄を終了します。



⑤ 中和剤投入

ペーハーマイナス（別売）を1m³に対し2kg投入し、pHの中和を行います。またDPD法で活性量を測定し、下表に従ってクロロイーター（別売）を投入します。それぞれの薬剤を投入後、15～30分循環機を稼働し、中和を行います。

DPD測定値 (mg/L)	1	5	50	100
1m ³ あたりのクロロイーター使用量	2g	10g	100g	200g



⑥ 排水・洗浄

排水後、すすぎ水がきれいになるまで水洗いを行います。ろ過機内は排水がきれいになるまで逆洗を行います。

取扱い上の注意

警告



酸化性



腐食性

本剤は入浴施設用配管洗浄専用薬剤です。他の用途には使用しないでください。

本剤は酸化剤ですので、貯蔵及び取扱いの際には次の点にご注意ください。

●分解を誘発、促進する金属類、酸、アルカリ、ハロゲン化物（塩素系薬剤等）、還元剤（チオ硫酸ソーダ、亜硫酸ソーダ等）、油脂類、その他可燃物と直接触れないようにしてください。

●本剤は飲み込むと有害です。

●粘膜に対して、刺激性があります。

●使用中に目にしみたり、気分が悪くなった時は、直ちに離れ、洗眼し、新鮮な空気のある場所へ移動し、使用を中止してください。



混合禁止



子供注意



必ず換気



水ぬれ注意

- ①火気、熱、直接日光等を避け、涼しい場所で保管してください。水ぬれには注意してください。（袋内に水、湯が入らないようお取扱いください。）
- ②取扱い時は手袋、マスク、ゴーグル等の保護具を着用し、濡れた身体での取り扱いを避けてください。
- ③皮膚、または衣服に付着した場合は、直ちに払い落とし、流水で十分に洗い流してください。金属を腐食しますので、使用に際して金属性の容器は使わないでください。袋から直接浴槽水へ本剤を投入してください。
- ④一旦袋から出したものや、こぼれたものを元の袋に戻さないでください。火災の原因になりますので、ゴミ箱やゴミ捨て場に絶対に捨てないでください。処分する場合は販売店にお問い合わせください。
- ⑤目、鼻、口へ入らないようにしてください。もし目に入った場合は、擦らないで15分以上洗浄してください。また、誤って飲み込んだ場合は、直ちに医師の手当てを受けてください。
- ⑥火災時は、現場から遠ざけて、類焼を避けてください。消火の場合は大量の水を安全な場所からかけてください。
- ⑦子供の手の届かない所に保管してください。

